セントラルケンタッキー日本人補習校　　令和６年（2024）１月 27 日

ＣＫＪＳだより

第 76 号

校長　松平　昭二

shoji_matsudaira@hotmail.co.jp

ここだったら下手と言われない

以前、ある会議で澤江幸則筑波大学准教授のお話を伺いました。テーマは「発達障害のある人とスポーツの関わりについて」です。スポーツが苦手な、不器用な子どもでも楽しめる、成功体験を得られる環境を、という内容のお話でした。

「〇〇の子どもは３回失敗するともうやらない」という関係者の言葉や、学校では下手と言われ、運動が苦手だった子どもが、人から「いいフォームだね」と言われたのをきっかけに、マラソンを走るようになったという事例の紹介もありました。途中から、私の中ではこれは発達障害の子どもたちだけの話ではないし、スポーツだけの話でもないよな、という思いがぐるぐる回っていました。会議後に、「こう受け止めたのですが、先生のお考えと違うでしょうか」と率直に質問させてもらったところ、澤江先生からは「まさにその通りです」と言っていただきました。

「A 君は、子どもの頃から劣等感の塊だった。病気で運動を制限されていたし、友だちと同じようにできないことが多すぎた。やっても下手だから笑われる。家でこっそりやってみたりするけど、やっぱりできない。できないと分かっているから、人前ではやりたくない。いろいろ理由をつけ、時には嘘をついてでもそういう場面から逃げたかった。先生は『やりなさい』と無邪気に言う。できないから、恥ずかしいからやりたくない、と腹の中で叫ぶが、どうせ分かってもらえないという諦めが先に立つ」。

A 君が偏屈な人間になったのは、そういう深い事情があったのです。子どもの頃から劣等感をもたせるようなことはとても残酷な仕打ちですし、全く必要ないことだと思います。そんなことをしてもらわなくても、やがて自分で気づきます。苦手でも楽しめる。そして、「ここだったら下手と言われない」場所。「安心・安全」で「成功体験を得られる」環境。そういう場所が子どもたちには必要だし、本当は学校こそ、そういう場でなければならないのです。

近日中に、来年度の「学校当番表」を作成します。今年度で退学される方は、**至急「退学届」を事務室へご提出ください**。よろしくお願いします。